

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p><b>【第1学年】</b> ○文章を書く量が増えた。 ▽拗音、促音や「は」「を」「へ」といった助詞の定着に課題がある。 ○100までの数の構成の理解が定着してきた。 ▽問題文を読み間違えることにより、解答を間違えていることがある。</p> <p><b>【第2学年】</b> ○友達との話し合いを通して、書いたものをより詳しく書き直すことができるようになってきた。 ○国語科においては、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを意識しながら文章を書くことができるようになってきた。 ▽かけ算九九が身に付いていない児童がいる。また、九九は覚えていても、かけ算のきまりや法則を使って問題を解くことに課題がある。 ▽国語科の物語文については、登場人物の言葉や行動から気持ちを想像することができるが、情景から気持ちを想像することに課題がある。</p> <p><b>【第3学年】</b> ○自分の考えを文章に書き表す力がついた。 ▽既習の漢字を正しく書くことに課題が見られる。 ▽かけ算九九、たし算・ひき算の簡単な筆算などの計算に課題が見られる。</p> <p><b>【第4学年】</b> ○国語科の学習では、文章表現に注目させ、筆者の主張を読み取ることができた。また筆者の主張を簡単に要約する力も伸びた。 ▽算数科の学習では、ノートに自分の考えをまとめたり、自分の考えを全体の場で表現したりすることに課題が見られる。</p> <p><b>【第5学年】</b> ○国語科の学習では、説明的文章における筆者の主張を読み取ったり、段落ごとに小見出しをつけたりすることができるようになった。さらに、文</p>	<p><b>【第1学年】</b> ●意図的な文を書く機会を継続し、ノートなどに文章や式などを書く活動を積極的に行う。 ▼ICT機器を活用して個に応じた練習問題や宿題を通して、学力定着を図る。 ▼文章を読む力を高めるため、読書活動の推進を図る。</p> <p><b>【第2学年】</b> ●引き続き、自分の考えを詳しく伝えられるように、話し合いの場を設定する。また、文章の構成を意識させながらの音読練習を継続することで、児童が文章を書く際の手掛かりとなるようにする。 ▼かけ算九九や漢字練習については、ICT機器やプリント等を活用し、定期的に復習する機会を設定する。 ▼情景から気持ちを想像することが難しい児童には、教科書の挿絵を見せる等して、視覚的に支援する。また、読書活動の推進を図り、さまざまな文章に触れる機会を増やす。</p> <p><b>【第3学年】</b> ●引き続き、自分の考えを文章にする活動では、書き始められない児童には、例を示したり、文の書き始めを示したりする支援を行う。 ▼ICT機器、プリント等を活用し、授業内で復習する時間をとったり、定期的に既習の内容について宿題を出したりするなどして定着を図る。</p> <p><b>【第4学年】</b> ●引き続き、読み取り後に要約した文章等を共有するなど、自信をもち学習できるようにしていく。 ▼児童の実態に応じた学習班で考え方を共有し、協働的に課題解決できる学習活動を設け、自信をもって学習を進めることができるようにしていく。</p> <p><b>【第5学年】</b> ●引き続き、児童の実態に応じた学習班を構成して考え方を共有し、協働的に課題解決できる学習活動を設ける。</p>

中のキーワード、接続詞に着目させることで、自分の力で要旨をまとめることができるようになった。

▽自分の考えを言葉で表現することに課題が見られる。

○算数科の学習では、分度器やコンパスの使い方を身に付け、正しく角度を測ったり、作図したりすることが概ねできるようになった。

▽文章題で立式の説明を文章で表現することに課題がある。

#### 【第6学年】

○国語科の学習では、一人1台端末の文書作成ソフトを活用し、文章構成や論の展開などの工夫について「読むこと」で得た知識を生かして文章を書く力を高めることができた。

△算数科の学習では、朝学習等の時間を活用し、小テスト等で既習の単元の復習を行ったものの、既習事項の定着については課題が見られる。

▼文章に対する自分の考えと、文章の内容を区別して相手に伝えられるよう、事実、感想、考えを分けて考えられるように指導する。

▼式の意味や文章題における数量の単位は何を表しているのか曖昧なまま考えている傾向がある。公式としてではなく、式の意味を大切に指導していく。

#### 【第6学年】

●引き続き、国語科の学習では「書くこと」の指導において、学習形態を工夫しながら、友達との共有の時間を十分に取り、考えを広げていけるような工夫を行っていく。

▼デジタルドリル等を活用しながら、個別の課題にあった問題を解けるように工夫し、既習事項の定着を目指す。